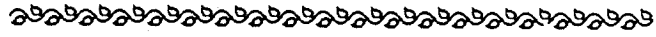


付 表



209. 岩槻市主要年表 204

209. 岩槻市主要年表

西 曆	年 号	事 項
1200	正 治 二	源広綱の孫資国は、丹波国太田庄に住し、太田氏を称す。
1243	寛 元 元	笹久保の善念寺に、この紀年銘の阿弥陀一尊板碑がある。
1333	元 弘 三	後醍醐天皇は、綸旨を下し法華寺の寺領を安堵する。
1335	建 武 二	足利尊氏は、武蔵国太田・渋江両郷に関し、国宣を下す。
1361	正平十六	市場の際文が作られる。
1375	天 授 元	石室善玖は、渋江郷金重村に平林寺を開く。
1455	康 正 元	太田資清は、家督を資長（道灌）に譲る。
1457	長 禄 元	上杉持朝が川越城を築き、持朝の将太田備中守資長が岩付城を築く。
1530	享 禄 三	太田資頼（道灌）の孫は、城代渋江三郎を破って、岩付城を回復する。
1538	天 文 七	北条氏綱は葛西城を陥る。ついで太田資正を岩付城に攻め帰陣する。
1560	永 禄 三	勝田佐渡守は、北条氏房に市を願い出て免許を与えられる。
1564	永 禄 七	北条軍の岩付攻めを太田勢が加倉・宮の下にて迎えうつ、加倉啜戦が行われた。
1570	永禄十三	北条氏政は、石エ左衛門五郎を武蔵遣わし、岩付城等の修築の石を採石させる。
1577	天 正 五	北条氏政は、岩付城諸奉行結番の掟書を出し、小旗奉行・鍮奉行・鉄砲奉行等を任命。潮田内匠助等が奉行となる。
1590	天正十八	豊臣方の浅野長吉、木村秀直の軍が、岩付城を攻め、火攻めで四日間で落す。
1614	慶長十九	元荒川筋に末田留井・瓦曾根留井が開発される。
1615	元 和 一	関根大炊助満親は、表慈恩寺・裏慈恩寺・花積村を開発する。
1617	元 和 三	関東は、連日暴風となり栗橋の渡流失し、日光社参中の將軍徳川秀忠は十三日まで岩槻城滞留する。
1633	寛 永 十	慈恩寺が焼失し、川越喜多院は本尊千手観音像を寄進する。
1663	寛 文 三	松平甲斐守輝綱は、平林寺を新座郡野火留に移す。
1680	延 宝 八	綾瀬川の河岸場川筋の用水堰が一切禁止されて、船の便がよくなり、馬込河岸場が出来る。 小菅村から隅田村までの新綾瀬川の開通により、綾瀬川は排水河川となる。

西 曆	年 号	事 項
1681	天和一	この頃から綾瀬川の藻刈がはじまる。
1693	元禄六	岩槻城三の丸の屋形の地祭が行われる。
1700	元禄十三	元荒川の藻刈がはじまる。
1709	宝永六	市宿町に火災あり。
1741	寛保一	足立、埼玉二郡にわたる東武蔵薬師霊場百二十ヶ所が組織される。
1766	明和三	助郷人馬制が布かれる。岩槻宿助郷村は、飯塚村・真福寺村・下新井村・柏崎村・浮谷村・横根村・笹久保新田・笹久保村・黒谷村である。
1774	安永三	岩槻宿の戸数八百十六軒・人数三千六百六十六人（男千九百十一人・女千七百五十五人）である。
1776	安永五	各町の大きさは、一宿町長さ五丁十二間・久保宿町長さ五丁三十間・渋江町長さ四丁九間・田中町長さ二丁十二間をはかる。
1786	天明六	五月頃より雨が多く、関東で大洪水、利根川の堤防を押切り栗橋・岩槻・草加等に被害が多く、江戸における寛保二年の大水を上回る惨状を呈す。
1787	天明七	岩槻宿で米価騰貴による打ちこわしが起こる。 児玉南柯が致仕する。
1788	天明八	児玉南柯は、謹慎を解かれる。
1799	寛政十一	岩槻城主大岡忠正の援助で岩槻城外廊内裏小路の一角に遷喬館を開く。
1804	文化一	岩槻藩儒臣児玉南柯が「漂客記事」を著わす。
1828	文政十一	慈恩寺本堂が焼失する。
1830	文政十三	岩槻藩校（遷喬館）教授児玉南柯が卒す。
1836	天保七	岩槻宿で米価騰貴による打ちこわしが起こる。
1847	弘化四	この年の岩槻宿の家数は八百十八軒・人数三千五百八十六人（男千八百二十六人・女千七百六十人）である。
1856	安政三	大風にて黒谷村では居宅など三十四～五軒こわれる。
1858	安政五	八月上旬から御府内に疫病が流行し、黒谷村中は、大般若祈禱を行う。
1859	安政六	大風雨にて備前堤が切れ綾瀬川一円に出水する。

西 暦	年 号	事 項
1862	文久二	東海道筋より麻疹が流行し、江戸中に広まり黒谷村付近にも流行し、大般若経典読むを行う。
1868	明治一	明治と改元される。
1869	明治二	武蔵知県事が廃止される。 大宮県が設置される。
1870	明治三	岩槻藩庁に掌政・民政衛官・会計・軍務・営繕・典学の六部局が置かれる。
1871	明治四	区制が実施され、岩槻市は、五区・二十区に編入される。 忍県・岩槻県・浦和県を廃止し、武蔵国埼玉郡及び葛飾・足立二郡中を以て埼玉県を設置する。 岩槻県の廃止により、遷喬館は廃校となる。 県庁の位置は岩槻町と定めたが、同所は施政に不便、且つ庁舎に支障あるを以って県庁舎は仮に旧浦和県廃庁舎を利用すべく大蔵省の認可を受ける。 岩槻城が廃毀される。
1872	明治五	岩槻の郷学校が開設される。
1873	明治六	宝国寺に鹿室学校を設置する。生徒男六十七人、女三人、教員三人である。 尾ヶ崎新田に公立小学校（尾ヶ崎学校）を設置し、正副寺を使用する。生徒男九十七人、女九人である。 岩槻郷学校は、市宿の芳林寺に移転し、岩槻学校と改称される。生徒男百二十二人、女五十四人、教員は男三人、女二人である。 寺院（川通村）に大戸学校を設置する。生徒男五十五人、女三人、教員男二人である。 高曽根村に、公立小学校（高曽根学校）を設置する。生徒男百一人、女十三人、教員男二人、女一人である。 柏崎村に、公立小学校（柏崎学校）を設置し、洞照院を仮用する。生徒男七十一人、女九人、教員男二人、女一人である。 郵便・電信電話局舎が建築される。 岩槻町辻村の土橋が板橋に改築される。

西 曆	年 号	事 項
1873	明治六	埼玉郡岩槻町九町の小名（市宿町・久保宿町・新町・富士宿町・林道町・田中町・横町・新曲輪町・渋江町）を廃止し、岩槻町と総称する。 岩槻町字久保宿百七十八番より出火、二十九軒延焼する。
1874	明治七	岩槻町で第二十区警察付属屯所が新築される。
1875	明治八	第二十区埼玉郡岩槻市宿町・久保宿町・新町・林道町・富士宿町・横町・田中町・新曲輪町・渋江町・春山新田・斉藤新田を合併し、岩槻町と改称する。 第五区黒沼九人組新田を鹿室村に、藤内新田を相野原村に、黒沼藤助新田を裏慈恩寺村に合併する。
1876	明治九	綾瀬川の新河岸場できる。
1889	明治二二	大口・南平野・長宮・大野島・増長・大谷・大戸・新方須賀・大森の九村が合併し、川通村となる。 掛・金重・本宿・箕輪・平林寺・馬込・川島村が合併し、河合村となる。 表慈恩寺・慈恩寺・裏慈恩寺・鹿室・相野原・古ヶ場・上野・南辻・小溝・徳力村が合併し、慈恩寺村となる。 尾ヶ崎新田・尾ヶ崎・釣上・釣上新田・野島方・孫十郎・高曾根・末田村が合併し、新和村となる。 飯塚・笹久保・黒谷・笹久保新田・木曾良・村国・南下新井が合併し、和土村となる。 柏崎・横根・谷下・浮谷・真福寺が合併し、柏崎村となる。 岩槻・太田両町が合併し、岩槻町となる。 浦和を県庁所在地とする勅令が出る。
1891	明治二四	大宮・岩槻間に乗り合い馬車が開通する。
1892	明治二五	岩槻町の人口は五千九百五十二人（男二千九百四十七人・女三千五人）戸数千七十五戸である。
1893	明治二六	岩槻町の人口は五千九百三十人（男二千九百四十人・女二千九百九十八人）戸数千八十戸である。
1909	明治四二	岩槻町の東武紡績合資会社でストライキ騒動が起こる。
1910	明治四三	岩槻町友楽座が新築落成される。
1911	明治四四	岩槻電気軌道（株）が設立する。

西 曆	年 号	事 項
1912	明治四五	御林山南端より出火、山火事となる。
1918	大正七	河合村に大雷雨の被害がある。
1920	大正九	岩槻・幸手線、岩槻・野田線等が県道に認可される。
1921	大正十	大宮・岩槻間乗り合いバスが開通する。
1924	大正一三	武州鉄道岩槻・蓮田間の開通式が挙行される。
1925	大正一四	武州鉄道岩槻北口駅が開設される。
1926	大正一五	岩槻人形界は不景気となる。
1927	昭和二	日米両国は人形を交換する。岩槻人形が初めてアメリカへ渡る。岩槻に輸出人形研究会が発足する。
1928	昭和三	武州鉄道岩槻・武州大門間が延長開業する。
1929	昭和四	北総鉄道の大宮仮停留所粕壁間が開通し、岩槻町駅が営業開始する。
1931	昭和六	埼玉県中心に地震発生、岩槻では民家十二軒が全半壊する。
1939	昭和一四	総武鉄道岩槻町駅が岩槻駅と改称される。
1943	昭和一八	新和村大字区域並びに大字名のうち野島方・孫十郎が野孫に変更される。
1944	昭和一九	総武鉄道大宮・船橋間が東武鉄道に合併され、東武野田線となる。
1945	昭和二〇	総武鉄道渋江駅・加倉駅は営業を休止する。
1949	昭和二四	岩槻・和土・柏崎中学校を廃止し、岩槻町二村組合立岩槻中学校と改称する。
1954	昭和二九	<p>県町村合併促進審議会で、岩槻町・河合村・和土村・慈恩寺村・柏崎村・川通村・新和村の合併が計画される。</p> <p>岩槻町は市政を施行する。初代市長平野廣が就任する。尾島清・利根川清が助役、坂爪海要が収入役、斉藤定吉が議長、伊藤満寿巳が副議長に就任する。</p> <p>岩槻・新和・慈恩寺の三箇所診療所を新設し、新和・慈恩寺地区の無医村が解消される。</p>
1955	昭和三〇	<p>世帯数は六千百十九、人口は三万五千百四十一人、男一万七千三百十六人・女一万七千八百二十五人である。</p> <p>市政施行一周年記念祝賀会式典が開かれる。</p> <p>岩槻市自治会が結成される。</p>

西 曆	年 号	事 項
1957	昭和三二	岩槻市は、七十八万二千八百円を投じて文化財遷喬館の復元に着手し、同年三月に完成する。 太田道灌公岩槻築城五百年、市制施行三周年、遷喬館復元の記念祭が開かれる。
1960	昭和三五	岩槻市立新和中学校を城南中学校と改称する。 上下水道工事クワ入れ式が行われる。 お林公園（岩槻公園）総合グランド兼野球場建設の起工式が行われる。
1961	昭和三六	水道給水条例を可決、家庭用基本料金三一〇円となる。
1962	昭和三七	岩槻公園に菖蒲池が完成する。 県立青年の家が岩槻公園内に建設。
1964	昭和三九	岩槻局の電話がダイヤル式に切り替わる。 皇太子・美智子妃が御来訪し、岩槻人形を視察される。
1966	昭和四一	市営球場が完成する。 台風四号が直撃し、雨量二九四ミリを記録し、市内各所で冠水・浸水の被害を受ける。 岩槻市における字の変更並びに町の設置が告示される。 学校給食センターの工事が着工される。
1967	昭和四二	東北縦貫道路の県内通過路線と岩槻I・Cの設置を発表する。
1969	昭和四四	総人口が五万人を突破する。 地下鉄七号線誘致期成同盟会が発足する。 東武野田線、東岩槻駅が開業する。
1970	昭和四五	市役所本庁舎が、消防署前の仮庁舎に移転される。 旧岩槻城の大手門が旧庁舎より岩槻公園内に移築される。
1971	昭和四六	浄国寺日鑑七七冊が埼玉県指定有形文化財となる。 岩槻市役所新庁舎が完成する。 中央図書館が開館する。
1972	昭和四七	総人口が七万人を突破する。 東北自動車道の岩槻・宇都宮が開通する。
1975	昭和五〇	移動図書館、こだま号が巡回を開始する。
1976	昭和五一	第1回人形の町岩槻祭が開催される。
1977	昭和五二	市民応募で市の木「つき」、市の花「やまぶき」を設定する。

西 暦	年 号	事 項
1978	昭和五三	第1回岩槻公園祭が開催される。 福祉会館で市政二五周年記念式典が行われる。
1979	昭和五四	岩槻公園野球場にナイター設備が完成する。
1980	昭和五五	東北自動車道の浦和・岩槻間が開通する。 県立民俗文化センターが開館する。
1981	昭和五六	福祉法制定三〇周年記念大会を開催する。
1982	昭和五七	千倉町と友好都市調印する。 市立児童センターが開館する 山吹作業所がスタートする。
1983	昭和五八	西ドイツスポーツ少年団岩槻市に親善訪問する。 小児医療センターがオープン
1984	昭和五九	事務処理がオンライン化する。
1985	昭和六〇	岩槻市行政改革大綱を策定する。 環境センターの建設が着工される。
1986	昭和六一	コミュニティセンターいわつき開館する。 岩槻市第二次総合振興計画基本構想決定する。
1987	昭和六二	消防北分署が開署する。 江川・南平野の両地区に土地区画整理連絡協議会が発足する。 南部公民館が開館する。 市立生涯学習センターが発足する。
1988	昭和六三	老人福祉センター「槻寿苑」落成式。
1989	平成元	中央公民館落成式。 市民温水プール落成式。
1990	平成二	通所更生施設「太陽の家」落成式。
1991	平成三	市民温水プール利用者一〇万人突破する。 北部公民館落成式。 生涯スポーツ都市宣言をする。
1992	平成四	城北大橋が開通する。 消防南分署の起工式。 永代橋が開通する。
1993	平成五	槻の森スポーツセンター利用者百万人達成する。 消防署南分署が完成する。